



12

水元さくら堤

みずもと

つつみ



DATA・BOARD ⑫

- ①東京都葛飾区東水元3～6丁目地先
- ②延長：約3,500m, 平均幅員：22.5m
- ③遊歩道, サイクリング道, ベンチ, バーゴラ, 修景池, 歌碑ほか
- ④アスファルト, 擬石平板, 雑割石, 黒御影石, 白御影石ほか
- ⑤サクラやハナショウブの開花期に観光協会によるイベント



葛飾区では、この先人が築いた堤防の機能と景観を考慮するとともに、隣接する水元公園との一体感を重視し、広域的で多目的なルートとして活用できるように整備を行った。

施工にあたっては、既存の桜並木を最大限活用し、約八〇〇本のサクラの間に車道、歩道、サイクリング道路を設けた。また、各所にベンチやパーゴラ、修景池、歌碑等を設置し、やすらぎと潤いのある情景を創造している。

「水元さくら堤」は、江戸時代中期まで古利根川（現中川）の派流として江戸川に合流していた小合川沿い（現水元小合溜）に築かれた堤防であった。周辺は古くから千本桜の名所として知られ、地域の人々からは桜土手の愛称で親しまれてきた。

●ふるさと風景にとけこむ道